



作っては剥がす

吉田 華

油彩、キャンバス

この作品は、自分のネガティブな感情を解体、分析し、作品として再構築するといった実践の中で制作した。

まず、作品のテーマとなったネガティブな感情は「死にたい」という感情である。

私は失敗したり、何か恥ずかしいことを思いだした時、瞬間的に「死にたい」と思ってしまう。

決して本当に死にたいわけではないが、この世界から逃避する手段として咄嗟に「死」が思い浮かぶのである。

その時に発せられる「死」への欲望は、本物の恐ろしい死ではなく防衛機制として作られた偽物の「死」と私は考えている。

誰にでも訪れ、誰もが恐れる死の現実離れした部分が、普段の何気ない日常の中で、いつの間にか現実逃避の手段という軽い「死」を生み出したのである。

そうして生まれた「死」はシールのようにチープで簡単に貼って剥がせるものであり、私の中で感情が揺れ動く度に、作られ剥がされている。

私はこの「死」を毎日のように作っては貼り、剥がしながら生きているのだと感じている。